

自分たちで守る地域の安全を考える

市民協働研究会委員 望月晴夫

課 題	現 状	解決の為に考えられること
大規模災害時（地震・豪雨など）における対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアコーディネーターによる対応 ・毎年江南市による防災訓練での学習（ボランティア支援本部活動訓練の実施） ・消防本部と社会福祉協議会によるボランティア養成講座の開講 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO、ボランティアグループと市役所、社協、各地区防災会などとの協議会の設立による協働 ・防災だけでなく防犯、地域安全の役割も担えるような仕組みをつくる
防災意識の普及	<ul style="list-style-type: none"> ・市民まつり、消費生活展において市役所と防災ボランティアグループと協働して活動 ・小町単位の集会への防災リーダーによる指導 	
自主防災会のあり方 規約の手直し	<p>自主防災の規約は各防災会によって異なりますが、役割を出来るだけ分散させ、子ども会、老人会などにも積極的に加わっていること、役員は、働き盛りの人が多く、昼間は不在となっている。また現在の規約は消防本部（国、県）から提示されたもので、区長、役員はほとんど1年で交代している。</p>	<p>規約の改訂、自治会の規約とは別に、独立した防災、災害ネットワークを作り別組織で、1年でなく、連続して勤められる。仕組みの必要を求める</p>
防災訓練の内容	<p>自主防災の訓練は、すべて消防本部からのお膳立て、各防災会は、訓練に登場する人集めに専念、当番だからいやいやながら出席（必ずしもそうでない会もあります。）している。あまりに行政に頼りすぎていないか。</p>	<p>“自分たちの住むまちは、自分たちの手で守る。”に徹して市民と行政がともに協働の心を学び、進めていける仕組みが大切である。 防災リーダーの活用・防災ボランティアの活用など</p>

- 1) 防犯についても現在各区・町内で自主的に防犯パトロール隊を結成して活動を進めています。この発想は、自分たちから自発的に提案して、警察署・行政の指導を仰ぎながら進めており、その成果をあげているところです。
- 2) 高齢者対策の強化・日頃のお隣さんと仲良く。江南市は東海地震に対しては一番離れた地域だから、地震は発生しないと思われる人もおられるようですがそれは違います。いつ直下型の地震が起きるか分からない
- 3) みんなで予算のないときは、知恵をしぼりあって“だれでも安心・安全に暮らせる住みやすいまちづくり”を進めようではありませんか。みなさまの貴重なご意見をいただきたいと思います。